

ITI Scholar NEWS

vol.17 (2024, November)

ITI Section Japan



ITI スカラー通信第 17 号をお届けします

谷ノ口 洋実 先生

University of Geneva

(Geneva, Switzerland)

まず初めにご推薦していただいた先生方、そして ITI section Japan の皆さまにこの場をお借りして御礼申し上げます。

レマン湖とアルプス山脈の素晴らしい景色が広がるジュネーブは、学生だけでなく誰にとっても住みやすい場所です。最近はずいぶん寒くなってきましたが日差しが強い日もあります。木の葉の色も彩りを見せて日本の美しい紅葉の季節を思い出させてくれます。しかし、この住みやすさには代償が伴います。現在、この都市は深刻な住宅不足に直面しており、住宅の空き率はわずか 0.42% です。またアパートメントの平均家賃は現在のレートで 60 万円ほどになります。アパートの賃貸契約を結ぶためには最低家賃の 3 倍の月収が必要とされます。しかし教授や医局の先生方、ITI 本部のサポートを受け少しずつではありますが家探しにも光が見えてきました。

学会面では早速 SSI、IADR また EAO の学会に参加してきました。最近ではミラノで行われた EAO に参加して Co-Author として Oral communication、Poster の両方の発表を行ってきました。

医局での生活では、非常に興味深いと思った活動の一つとして 1 月に一回の頻度で仕事が終わってからアットホームな雰囲気での通常の Literature Review の他に Journal Club というものがあります。こちらの Journal Club のコンセプトとしては夕食を頂きながら最も有名な補綴とインプラントのジャーナルの中の最新の論文について議論するものになります。時には医局のメンバーの家に皆で集まって夜遅くまで議論します。こちらの先生方の情熱に驚かされることもあります。1 週間に読む論文の数は平均して 15~20 ほどになることもよくあります。

医局のメンバーの皆さんは非常に優しく、すでにプロジェクトにも多数参加させていただいております。フランス語でバイオマテリアルの授業を受けたり、治療計画を立てたりもしています。そのほか、1 週間ごとにさまざまなトピックについての専門家をお招きして勉強会を行なっています。

授業やジャーナルクラブ、症例検討会など半分はフランス語で行われるのと患者さんとはフランス語のみで対応するのでフランス語が分かるとより勉強する機会が増える印象を受けます。

臨床でも積極的に患者さんの治療に参加させてもらい、来月は複数歯欠損の患者さんのインプラント埋入オペを行う予定です。

娘もインターナショナルスクールに慣れてくれたようで、フランス語と英語を少しずつ話しております。家の中では日本語で話すようにしています。

こちらでの生活は容易ではありませんが娘の成長が自分の勉強の励みになります。

最後に僭越ながら、このジュネーブ大学での経験を日本の歯科医師、そして関係者の方々にお伝えしてこれからの日本の歯科、特に歯科インプラント分野の発展に貢献出来るように少しでも尽力できればと考えております。

谷ノ口洋実



ジュネーブ大学の指導教官 Sailor 教授と



EAO MILAN24 での発表



東京医科歯科大学（現東京科学大学）の紹介



EAO Honorary Membership を授与されたベルン大学 Buser 教授と



ストローマン社ダイナミックガイド：FALCON

ありがとうございました。

